

## 地盤調査規格・基準委員会

平成27年度第2回 議事録

日時	平成27年10月8日（木）14:00～17:00			場所	地盤工学会 会議室			
委員長	利藤 房男	○	幹事（岩）	長田 昌彦	×	幹事（土）	浜田 英治	○
委員	久内 伸夫	○	WG1委員	窪田 健二	○	WG2委員	辻野 敏文	○
WG2委員	中野 義仁	×	WG3委員	竹内 真司	×	WG3委員	小松 満	○
WG4委員	平林 弘	○	WG5委員	小早川 博亮	○	WG5委員	百瀬 忍	○
WG6委員	藤田 智弘	○	WG7委員	浅井 健一	×	WG7委員	吉田 輝	×
WG8委員	伊藤 圭二郎	○	WG9委員	長田 昌彦:兼務	×	WG10委員	杉井 俊夫	△
WG10委員	細谷 真一	△	WG11委員	平林 弘:兼務	○	WG13（幹事）	横山 幸也	○

○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席 △：未定

### 配布資料

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録（H27-7-7）	・ 資料27-2-1
基準部会	・ H27第2回（H27. 07. 21）議事録 ・ H27第3回（H27. 09. 15）議事録	・ 資料27-2-2 ・ 資料27-2-3
基準部会<英訳実行委員会>	・ JGS 基準英訳の贈呈に関する行事について ・ Review article（総説：地盤調査）	・ 資料27-2-4 ・ 資料27-2-5
ワーキング3	・ WG3活動報告「H27第2回議事録」	・ 資料27-2-6
	・ 新規基準「単孔を利用した地下水流向流速測定方法」の英訳案<審議>	・ 資料27-2-7
ワーキング10	・ 新規基準案「地下水面より上の地盤を対象とした透水試験方法」に関する公示文章案<審議>	・ 資料27-2-8
ワーキング11	・ 動的コーン貫入試験方法JIS化WG設立趣意書	・ 資料27-2-9
ワーキング13	・ 水圧破碎法基準案（修正版）<審議>	・ 資料27-2-10
会員からの質問	・ 固定ピストン式シンウォールサンプラー質問・回答	・ 資料27-2-11
その他	・ RI計器による土の密度試験方法（JGS 1614-2012）について（WG6）	・ 資料27-2-12
	・ 書籍化にあたっての手順について	・ 資料27-2-13
	・ 公益出版部出版物の運営細則（25. 3. 15）	・ 資料27-2-14

### 審議事項

- 新規基準「単孔を利用した地下水流向流速測定方法」の英訳案（資料27-2-7）
  - ・ WG3の小松委員より、英訳基準の最終案について説明がなされた。
  - ・ 浜田幹事より今年度出版する英訳基準の見本を送付し、フォーマット等の様式を揃えることとした。
  - ・ ネイティブに英訳のチェックを外注する経費を、次年度予算に計上することとした。

→11/5の基準部会での審議事項

- 新規基準案「地下水面より上の地盤を対象とした透水試験方法」に関する公示文章案（資料27-2-8）
  - ・ WG10の小松委員より公示文章案の説明があり、全員一致で承認された。

→11/5の基準部会での審議事項

- (3) 動的コーン貫入試験方法JIS化WG設立趣意書（資料27-2-9）
- ・WG11の平林委員より趣意書の説明があり、全員一致で承認された。
  - ・本基準のJIS化にあたっては今後、基準部会・事務局と連携しながら進めることとした。

→11/5の基準部会での審議事項

- (4) 「水圧破碎法による初期地圧の測定方法」基準案（修正版）（資料27-2-10）
- ・WG13の横山幹事より、修正版の説明がなされた。
  - ・これについて、委員より以下の意見が出された。
    - ☞英文タイトルは、最初のみ大文字とする。
    - ☞「送水レート」の用語は一般的ではないため、用語説明に追加する。
    - ☞破碎圧、き裂閉口圧、き裂再開口圧のタイトルに、記号を付す。図A.1の記号・フォントもこれに合わせる。
    - ☞断定的な表現がある注記は、本文に入れる。
      - 4.1の注記1は、「・・・望ましい。」を追加。
      - 4.2の注記6は、「パッカーの長さは、試験区間より長くする。」を本文へ。
      - 5.2の注記8は、「・・・望ましい。」を追加。
    - ☞数字と単位との間に半角ブランクを挿入。
    - ☞「5. 測定方法」の直下に、水圧破碎試験の手順を簡単に説明する。
    - ☞5.1の注記1で、孔井の孔径は数字のみで示す（NQ、HQを用いると、引用規格・基準が必要となるため）。
    - ☞附属書Bの見出しのタイトル「き裂閉口圧の決定方法の例（ISIP法）」を、「き裂閉口圧の決定方法（ISIP法）の例」に修正。
  - ・再修正版をメール審議して、次回基準部会に上申することとした。

→11/5の基準部会での審議事項

報告事項

- (1) 前回議事録確認（メール審議で承認済み）（資料27-2-1）
- ・特になし
- (2) H27第2回の基準部会議事録（メール配信にて報告済み）（資料27-2-2）
- ・特になし
- (3) H27第3回の基準部会議事録（メール配信にて報告済み）（資料27-2-3）
- ・WG3等の委員会開催日が抜けているので、補足しておく（幹事）。
- (4) 基準部会<英訳実行委員会>・JGS 基準英訳の贈呈に関する行事について（資料27-2-4）
- 同上
- ・Review article（総説：地盤調査）（資料27-2-5）
  - ・幹事（英訳実行委員兼務）より、英訳基準の贈呈と出版について説明した。
  - ・英訳基準に関し、委員より以下の質問があった。
    - ☞英訳基準（Vol.1）の販売予定日と、委員への周知方法・広告の有無について。
    - ☞今回出版する英訳版も、地盤工学会基準と日本工業規格としての位置付けなのか（配布資料の「総説」からはこの主旨が読み取れなかった）。
- これらについては、幹事が次回の基準部会11/5にて確認して報告することとした。
- (5) ワーキング3活動報告「議事録」（資料27-2-6）
- ・WG3の小松委員より、議事録に基づき活動報告がなされた。
  - ・「理論式の誘導整理」の書籍化については、収入が見込めないことから販売ルートに乗せた書籍とするのではなく、会員が閲覧できる方法がないか事務局に確認することとした（幹事）。
- ※本委員会後に幹事が事務局に確認したところ、以下の見解であった。
- ☞Web公開等の方法もあるが、まずは基準部で協議してから方針を決めてほしい。

→11/5の基準部会での報告事項

- (6) 前回委員会以降の会員からの質問と回答（資料27-2-11）
- ・WG2の辻野委員より説明がなされた。  
特に異議なし

その他

- (1) RI計器による土の密度試験方法（JGS 1614-2012）について（WG6）（資料27-2-12）
- ・WG6の藤田委員より、会員から「R I 計器の線源棒の紛失が半年ほどで2件発生しているので、地盤工学会のJGS1614-2012の内容の一部変更を検討してほしい」との要請があった、との報告がなされた。
  - ・本件についてWG6にて検討し、その結果を本委員会に報告してもらうこととした。
- (2) 書籍化にあたっての手順について（資料27-2-13）  
公益出版部出版物の運営細則(25. 3. 15)（資料27-2-14）
- ・幹事が現行の書籍化の手順を説明したが、出版ルートが丸善に移行したので、今後の見通しについて基準部会や事務局に確認することとした。
  - ・新基準の「単孔を利用した地下水流向流速測定方法」と「動的コーン貫入試験方法」については、担当WGよりそれぞれ300部の冊子を出版したい意向があった。
- ※本委員会後に幹事が事務局に確認したところ、以下の見解であった。
- ☞従来のように新基準ができたらとって直ぐには冊子を出版出来なくなった。まずは必要性や収益性について基準部で協議してから方針をきめてほしい。

→11/5の基準部会での報告事項

- (3) 次年度の幹事（岩）の交代について
- ・他のメンバー交代も含めて、次回委員会の議案とすることとした。